

令和元年度
白子町地域包括支援センター事業報告

白子町介護保険運営協議会

1. 介護予防・日常生活支援総合事業

(1) 介護予防・生活支援サービス事業

事業名	実績	効果と今後
①介護予防ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援者を対象に予防プランの作成及び委託を実施した。 ・要支援対象者は年々増加傾向にある。 ・地域包括支援センターが中心となり医療・介護・福祉関係者とチームを組みサービスに結びつくように調整・支援をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし、老夫婦等の世帯構成に合わせ、必要な介護サービスに結びつけ、本人に応じた自立や生きがいに繋がる生活を支援していく。

(2) 一般介護予防事業

①介護予防の普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン・ミックストレーニング及び健康倶楽部の参加者に対して健康に関する講話及び健康相談を実施した。 ・「歩数計を持ち歩数を意識しながら日常生活の中で体を動かす」、「食生活を見直し気を付ける」等の改善事例が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防や健康に関する話を聞くことにより、介護予防についての意識を高めるとともに、運動の実践や健康に対して関心を持ち、行動の変化に繋がっている。 ・最新情報を普及啓発し健康寿命が延びる取り組みを各教室以外でも機会をとらえ普及していく。
②いきいき健口教室	<ul style="list-style-type: none"> ・基本チェックリスト該当者に口腔機能訓練を実施し、口腔、栄養に関して個別のモニタリングと評価を行い介護予防に繋げる事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔体操をすることで、口周りの筋力が強化され飲み込みやすくなり、お茶や汁物でむせることが少なくなり、食物が美味しく食べられるようになる。 また、教室参加後に日常生活の見直しをするきっかけになった。(口腔 栄養) ・今後は、転倒予防や廃用性症候群の予防を視野に入れて取り組む。

※健康寿命とは、WHOが提唱した新しい指標で、平均寿命から寝たきりや認知症など介護状態の期間を差し引いた期間のことです。

※基本チェックリストとは、65歳以上の高齢者が自分の生活や健康状態を振り返り、心身の機能で衰えているところがないかどうかをチェックするためのものです。

※廃用性症候群とは、「床ずれ」など長期の安静状態によって起こる心身の機能の低下を相称しています。

事業名	実績	効果と今後
③ふれあい幸民館	<ul style="list-style-type: none"> ・運動とコグニサイズを取り入れて介護予防の向上に努めており、高齢者が目標を持って活動ができるようになっている。 (例:歩数計の目標数達成・買い物、近所への訪問等で外出の機会を増やす等。) <p>※月曜日(白潟ふれあいセンター) 火曜日(南白亀ふれあいセンター) 金曜日(関ふれあいセンター)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かし行動するようになり、積極的に健康管理に気をつけるようになっており、要介護状態に移行しないよう歯止めとなっている。 ・低栄養防止のため、管理栄養士の講話を計画的に行っていく。 ・令和2年度は、コロナ禍に対応しながら、半日での開催をしていく。
④介護度重度化防止推進事業(健康倶楽部)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が容易に通える地域の青年館で住民主体で介護予防が実施できるように、サポーターが支援を行い事業展開が出来た。 ・参加者は自宅でも、覚えた体操を行い介護予防に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体で体操や交流を行い、介護予防及び地域住民の交流の場づくりに繋げている。 ・健康寿命に繋がる体操や脳トレの研修をサポーターに実施し、参加者に普及できるように取り組んでいく。
⑤介護支援サポーター事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新規登録者が1名あり、登録者8名中6名が活動をした。サポーターは、年間延べ229時間の活動を実施した。 ・受入施設に対し、サポーター活動の積極的な活用をしてもらうよう依頼し、活動時間の増大に繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーターの活動時間が増加したことでサポーター自身の生きがい・やりがいとなり、介護予防に繋がっている。 ・現サポーター向けにフォローアップ研修会の開催等を検討していく。

※コグニサイズとは国立長寿医療研究センターが開発した運動と認知課題(計算、しりとりなど)を組み合わせた、認知症予防を目的とした取り組みのことです。

2. 包括的支援事業

(1) 総合相談支援業務

事業名	実績	効果と今後
① 総合相談支援	<ul style="list-style-type: none">・「介護及び福祉サービスの利用」・「サービスを利用するための関係機関との調整」等1,500件を超える相談に取り組んでいる。・相談者の中には、判断力の低下等に伴い金銭管理が出来ない方、生活費が不足している方、住む場所がない方等、複雑な問題が増えてきている。	<ul style="list-style-type: none">・高齢者の様々な相談を受け、適切に関係機関、制度、サービスに繋ぎ問題解決に結びつけている。・一時的に本人・家族の代わりに対応をせざるを得ない事例も発生しており、応急的な支援を関係機関と協力しながら対応していく。
② 認知症を抱える家族交流会	<ul style="list-style-type: none">・定期的に(奇数月)集まる交流会を提供し、同じ悩みを持つ者同士の交流会を実施し、介護負担を共感しあえる場、抱え込まないで理解しあえる仲間作りを行った。	<ul style="list-style-type: none">・認知症を抱える家族の介護負担の軽減や生活に関する情報を提供し、更に交流する事により介護に関する悩みの軽減や介護力の向上に結びついている。・新型コロナウイルスの状況を踏まえ内容を修正しながら継続していく。
③ 権利擁護業務	<ul style="list-style-type: none">・家族の協力が得られず、判断力が弱ってきた一人暮らし高齢者の方が、金銭管理やサービス利用契約をできる様にする為に、成年後見制度の申立て支援を行った。	<ul style="list-style-type: none">・関係者の支援だけでは十分に問題解決できない状況にある高齢者を専門的、継続的な視点から支援しており、今後も制度の必要な方が利用できるように総合相談や関係機関からの連絡等を通じて支援を行う。

(2) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

事業名	実績	効果と今後
①介護支援専門員との意見交換会	<ul style="list-style-type: none">・意見交換会は年2回、実施している。利用者の状態・置かれている環境等が人それぞれ違う中、他の介護支援専門員の意見を聞く事でアセスメントの結果どう判断したのかを振り返っていただく良い機会となっている。	<ul style="list-style-type: none">・介護保険料の給付を担う唯一の職種である介護支援専門員だからこそ、制度を理解しあう場の提供が必要であり、提供の場として包括が主体となり今後も指導・助言をしていく。
②地域ケア会議	<ul style="list-style-type: none">・令和2年度から実施できるように仕組み作りを行った。・模擬会議を2事例行い、アドバイザーより会議を行う上での留意点の指導を受けた。	<ul style="list-style-type: none">・多職種より専門的なアドバイスを受け、要支援者の自立支援と生活の質の向上が図れるよう、地域ケア会議を実施する。

(3) 認知症総合支援事業

①認知症初期集中支援チーム	<ul style="list-style-type: none">・認知症サポート医・保健師・介護福祉士・社会福祉士がチーム員となり、医療及び介護サービスに結び付け、認知症の人やその家族の介護問題の解決を図った。・毎月、認知症サポート医に認知症の相談を報告し助言を得て支援に繋げている。	<ul style="list-style-type: none">・認知症の人やその家族に訪問支援等で認知症の早期診断及び早期治療を促し、適切な医療・介護サービスに繋げ問題の解決を図る。・初期集中支援チームを広報で広く周知するとともに介護支援専門員にも周知し抱え込まないように取り組んでいく。
---------------	---	--

(4) 在宅医療・介護連携推進事業

①医療・介護関係者の研修	<ul style="list-style-type: none">・令和元年度は看取りをテーマに医療従事者や居宅介護支援事業所を対象に研修会・グループワークを実施した。	<ul style="list-style-type: none">・高齢化社会の中で医療関係者と介護支援事業所が連携を図る事により、病気を抱えた要介護者の情報共有がしやすくなるとともに、円滑な支援提供が実施できるようになる。今後も多職種をつなぐ役割を担う包括として地域課題を把握しながら研修テーマを検討し実施していく。
--------------	---	--

1. 介護予防・日常生活支援総合事業

事業	主な実績内容等
(1)介護予防・生活支援サービス事業	要支援者等に対して、要介護状態等になることの予防、軽減、悪化防止及び地域における自立した日常生活の支援をし、活動的で生きがいのある生活を支援する。
①介護予防ケアマネジメント	介護給付費延べ請求数 715名 ケアマネジメントA延べ請求数 514名 (R2. 3. 31) ※実利用:介護給付及びケアマネジメントA合算:108名 <令和元年度見込み数:90名>
(2)一般介護予防事業	全ての高齢者を対象に年齢や心身の状況等によって分け隔てることなく、住民主体の通いの場を充実させ、人と人との繋がりを通じて参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進する。
①介護予防普及啓発事業	介護予防に関する普及啓発として運動、栄養、口腔等に関する介護予防教室等を行う。
(ア)介護予防の普及啓発	(1)開催回数:計18会場<令和元年度目標:20会場> (2)開催場所:サロン・ミックストレーニング・健康倶楽部 (3)実参加人数:206名 <令和元年度目標:200名>
(イ)いきいき健口教室	<第7期計画:開催回数8回・延べ参加人数85名> (1)開催回数:8回 (2)実参加人数:20名 <令和元年度目標:18名> (3)延べ参加人数:137名 (4)期間:10月～12月 教室の参加者に個別のモニタリングと評価(口腔・栄養指導)
(ウ)ふれあい幸民館	<第7期計画:開催回数143回・延べ参加人数1,630名> (1)開催回数:124回 (2)実参加人数:33名 <令和元年度目標:54名> (3)延べ参加人数:1,157名 (4)実施日:毎週:月・火・金 実施 教室の参加者に個別のモニタリングと評価
②地域介護予防活動支援事業	年齢や心身の状況等によって高齢者を分け隔てることなく、誰でも一緒に参加することのできる介護予防活動を目指して、住民主体の通いの場等の活動を地域の実情に応じて支援する。

事業	主な実績内容等
(ア)脳のリターン教室	<p><第7期計画:開催回数44回・延べ参加人数705名> (1)開催回数:40回 (2)実参加人数:17名 <令和元年度定員:18名> (3)延べ参加人数:642名 (4)コース:10ヶ月</p>
(イ)介護度重度化防止推進事業 (健康倶楽部)	<p>(1)開催回数:計94回 毎月:8会場で10回開催 (2)開催地区:牛込東・浜宿東・浜宿下村南・幸治東(月2回)・ 福島(2会場)・南日当・北高根宮ノ台・古所西 <令和元年度目標:12会場> (3)実参加人数:85名 <令和元年度目標:120名> (4)延べ参加人数:623名 ※白子町リズムダンスの普及啓発に協力した。 各会場(青年館)において、ダンスを指導している。 介護度重度化防止推進員・介護予防出張教室協力員研修会 期日:10月29日 参加者数:22名 場所:白濁ふれあいセンター</p>
(ウ)介護支援サポーター事業 (社協委託)	<p><第7期計画:登録者数10名・延べ活動時間50時間> (1)登録者総数8名<内新規1名>(新規目標:5名) (2)サポーター活動延べ時間229時間 (3)ポイント換金者5名 (千円:2名・2千円:1名・3千円:1名・5千円:1名)</p>

2. 包括的支援事業

(1)総合相談支援業務	<p>高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を継続していくことができるよう、心身の状況や生活の実態、必要な支援等を幅広く把握し、相談を受け、適切な保健、医療・福祉サービス、機関又は制度の利用につなげる等の支援を行う。</p>																																								
①実態把握	<p>(1)福祉調査票の管理 (2)給食サービスボランティアとの連携 ・16回 延べ753名 ・実利用者53名</p>																																								
②民生委員児童委員協議会等の定例会に参加	<p>連絡調整及び情報提供を行った。 <千葉県警・消費者センターからの注意喚起事項></p>																																								
③総合相談支援 <権利擁護業務含む>	<p>(1)相談総件数 1,554件(延べ数)実相談296件 <令和元年度見込み総談数:1,000件見込み・実相談:200件> <<相談内容内訳>></p> <table border="0" data-bbox="571 1289 2159 1442"> <tr> <td>・寝たきり高齢者</td> <td>6件</td> <td>・一人暮らし高齢者</td> <td>166件</td> <td>・認知症高齢者</td> <td>146件</td> <td>・介護に関する事柄</td> <td>103件</td> </tr> <tr> <td>・介護及び福祉サービス</td> <td>299件</td> <td>・保健及び医療</td> <td>36件</td> <td>・精神的支援</td> <td>13件</td> <td>・生活支援</td> <td>92件</td> </tr> <tr> <td>・状況確認</td> <td>295件</td> <td>・関係機関</td> <td>249件</td> <td>・権利擁護及び成年後見</td> <td>22件</td> <td>・消費者被害</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>・高齢者虐待(疑いも含む)</td> <td>4件</td> <td>・施設入所</td> <td>39件</td> <td>・介護方法(技術)</td> <td>1件</td> <td>・苦情全般</td> <td>8件</td> </tr> <tr> <td>・やむを得ない事由による措置</td> <td>0件</td> <td>・個人の悩み事</td> <td>20件</td> <td>・家族間調整</td> <td>50件</td> <td>・その他</td> <td>3件</td> </tr> </table>	・寝たきり高齢者	6件	・一人暮らし高齢者	166件	・認知症高齢者	146件	・介護に関する事柄	103件	・介護及び福祉サービス	299件	・保健及び医療	36件	・精神的支援	13件	・生活支援	92件	・状況確認	295件	・関係機関	249件	・権利擁護及び成年後見	22件	・消費者被害	2件	・高齢者虐待(疑いも含む)	4件	・施設入所	39件	・介護方法(技術)	1件	・苦情全般	8件	・やむを得ない事由による措置	0件	・個人の悩み事	20件	・家族間調整	50件	・その他	3件
・寝たきり高齢者	6件	・一人暮らし高齢者	166件	・認知症高齢者	146件	・介護に関する事柄	103件																																		
・介護及び福祉サービス	299件	・保健及び医療	36件	・精神的支援	13件	・生活支援	92件																																		
・状況確認	295件	・関係機関	249件	・権利擁護及び成年後見	22件	・消費者被害	2件																																		
・高齢者虐待(疑いも含む)	4件	・施設入所	39件	・介護方法(技術)	1件	・苦情全般	8件																																		
・やむを得ない事由による措置	0件	・個人の悩み事	20件	・家族間調整	50件	・その他	3件																																		

事業	主な実績内容等
	<p>(2)対象別相談件数 539件(延べ数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員 41件 ・民生委員 11件 ・当事者(利用者) 114件 ・その他 0件 <p>※一人暮らし・高齢者世帯等把握訪問 32件</p> <p>(3)方法別相談件数 539件(延べ数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話262件 ・文書1件 ・来所90件 ・訪問186件 ・その他1件 <ul style="list-style-type: none"> ・サービス事業者 8件 ・近隣 7件 ・知人 20件 ・主治医 1件 ・家族 216件 ・関係機関 121件
④認知症を抱える家族交流会の支援 ＜家族交流会＞	<p>(1)開催回数:5回 8家族 ＜令和元年度目標数:年6回実施 7家族＞</p> <p>内 訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延べ参加人数40名 内 容:①病気とストレスとめまい ②セルフメンテナンス(ストレッチ) ③災害時の身の安全確保と対処法 ④認知症とは ⑤栄養と運動 <p>(2)サポーターによる安否確認の訪問数 3件</p>
(2)権利擁護業務	<p>(1)日常生活自立支援 4件</p> <p>(2)成年後見制度の活用 4件</p> <p>(3)高齢者の詐欺防止の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員及び介護支援専門員に情報提供を行った。 <p>＜千葉県警・消費者センターからの注意喚起事項＞</p>
(3)包括的・継続的ケアマネジメント 支援業務	<p>高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、介護支援専門員、主治医、地域の関係機関等の連携、在宅と施設の連携等、地域において多職種相互の協働等により高齢者を支援する。また介護支援専門員に対する支援等を行う。</p>
①介護支援専門員との意見交換会	<p>実施:年2回 <令和元年度目標:年3回・各20名 ></p> <p>8月29日 20事業所 24名参加</p> <p>※事例検討</p> <p>2月19日 4事業所 9名参加</p>
②地域ケア会議推進	<p>実施:2事例 <令和元年度見込み:2事例></p> <p>(1)模擬会議打合せ会議 期 日:8月19日・10月4日・1月30日</p> <p>(2)模擬会議 期 日:1月30日</p> <p>参加者:介護保険係・地域包括支援センター・理学療法士・作業療法士・管理栄養士・主任介護支援専門員・助言者</p> <p>事例数:2事例</p>

事業	主な実績内容等
(4)地域包括支援ネットワークの構築	地域の保健・福祉・医療サービスやボランティア活動、インフォーマルサービス等の様々な社会資源が有機的に連携する。体制を支える共通基盤として「地域包括支援ネットワーク」の構築を行う。
①協議体への参加	(1)期日:1月8日
(5)認知症総合支援事業	認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられるよう、認知症の人やその家族に関わる。
①認知症初期集中支援チーム	<p>(1)実相談件数:28件(終結15件・継続1件) 延べ相談件数:29件(一般20件・チーム員9件) つなぎ先:医療9件・介護7件・ケアマネ7件</p> <p>(2)認知症初期集中支援チーム該当者 3名</p> <p>(3)白子町認知症初期集中支援チームサポート医 期 日:4月16日・5月27日・6月18日・7月23日・8月20日・9月26日 10月29日・11月26日・12月24日・1月28日・2月17日 場 所:安藤医院 参加者:認知症サポート医安藤医師</p> <p>(4)長生郡5町村認知症初期集中支援チーム検討委員会 期 日:10月31日 場 所:長生村役場 参加者:白子町・長生村・睦沢町・長南町・長柄町担当者・担当課長・検討委員</p> <p>(5)茂原市長生郡認知症初期集中支援チーム検討会 期 日:12月16日 場 所:長生郡市保健センター 参加者:医師会・茂原市・白子町・長生村・一宮町・睦沢町・長南町・長柄町担当者及び認知症初期集中支援チーム</p> <p>(6)茂原市長生郡認知症初期集中支援チーム事業担当者会議 期 日:1月31日 参加者:医師会・茂原市・白子町・長生村・一宮町・睦沢町・長南町・長柄町担当者及び認知症初期集中支援チーム</p>
(6)在宅医療・介護連携推進事業	<p>(1)医療機関や介護機関の資源の把握及び在宅医療の情報を広報紙にて周知</p> <p>(2)医療・介護連携研修会にて課題を抽出</p> <p>(3)医療・在宅介護の提供体制を病院のケースワーカーや介護支援専門員と連携し適切な医療在宅介護に繋いだ</p> <p>(4)在宅医療介護連携に関する相談を総合相談支援で実施した</p> <p>(5)医療・介護連携研修会 期日:12月13日 場所:白子町関ふれあいセンター 参加数:53名 <令和元年度見込み:20人></p> <p>①内 容:終末期やリビングウィルについて理解する 講 師:公立長生病院 副院長 阿部 恭久 氏</p> <p>②グループワーク</p> <p>(6)長生管内地域包括支援センター定例会において関係周辺市町村と連携を図る。5回</p>

事業	主な実績内容等
(7)生活支援体制整備事業 (社協委託)	(1)協議体 ・期日:1月8日第1回協議体会議開催 内容:①白子町で求められている生活支援ニーズの把握方法の協議 ②事業推進を行う上での基本プロセスの設定 ③新規生活支援サービス創設の為の工程表作成 (2)生活支援コーディネーター ・他市町村の事業実施状況等の情報収集及び協議体会議等へ出席

3. 任意事業

事業	主な実績内容等
(1)認知症サポーター養成事業	期日:8月20日 <令和元年度目標:15名> 場所:白子町公民館 参加人数:5名
(2)介護係と包括打合せ会議	期日:7月10日・24日・12月18日・3月18日